平方根を取る操作を有限回くりかしてめか得られることだりと定める。 □

例 12 ヤナル= ナノ「ヤ √1+√5 は Q上作図可能である。

√元はQ(元)上作図可能である

a,b,ceKのとき、ax2+bx+c=0の解はK上作図可能である [

正の整数 n に対して、 $S_n = e^{2\pi \lambda / n}$ となべ、

問題3-1 ろが Q上作図可能なことを示せ.

 $\frac{\text{EV}}{\text{N}}$ $W=3_5$ とかく、 2次方程式の解と厚数の関係を使う、 $d=W+W^4$, $\beta=W^2+W^3$ とかくと、 $d+\beta=?$, $d\beta=?$. $W+W^4=d$, $W\cdot W^4=1$.

注意 本質的に正五角形の作図可能性! □

問題 3-2 517 かQ上作図可能なことを示せ、□ ← かなり非自明、

で(これに関連した問題をずらと後にレポート課題に出す予定)

レント $\omega = 5_{17}$, $\omega_0 = \omega$, $\omega_{k+1} = \omega_k^3$ とかく、 $\begin{cases} \omega^{17} = 1, \ \omega \neq 1 \\ \omega^{16} + \omega^{15} + \dots + \omega \neq 1 = 0 \end{cases}$

- (0) $\{\omega_0, \omega_1, ..., \omega_{15}\} = \{\omega, \omega^2, ..., \omega^{16}\}$
- (1) $d_0 = \omega_0 + \omega_2 + \cdots + \omega_{14}$, $d_1 = \omega_1 + \omega_3 + \cdots + \omega_{15} \ \epsilon \epsilon_1 < \epsilon$, $d_0 + d_1 = ?$ $d_0 d_1 = ?$
- $\beta_0 + \beta_2 = \lambda_0$, $\beta_1 + \beta_3 = \lambda_1$, $\beta_0 \beta_2 = ?$, $\beta_1 \beta_3 = ?$, $(\beta_0 + 1)\beta_1 = \beta_0 - 1$
- (3) $Y_{\lambda} = \omega_{\lambda} + \omega_{\lambda+8} \quad (\lambda = 0, 1, ..., 7) \quad \forall \lambda, \lambda < \xi,$ $Y_0 + Y_4 = \beta_0$, $Y_0 Y_4 = ?$
- (4) $W_0 + W_8 = Y_0$, $W_0 W_8 = ?$

|注意||本質的に正17角形の作図可能性! Carl Friedrich Ganss が発見。□

問題
$$3-3$$
 $\frac{1}{1+52+53+256}$ の分母を有理化せよ、 \Box

ビント 15 H-15 1 1

|問題3-4| a,bea, a+bと仮定する、Q(√a,√b)=Q(√a+√b)を示せ、 ここで、Q(石,石)に及、石,石を含むCの部分体で最小のものを表す、口

問題 3-5
$$d = \omega \sqrt[3]{7}, \quad \omega = e^{2\pi\lambda/3} = \frac{-1+\sqrt{3}\lambda}{2}$$
 ZZY.

(1) [Q(d):Q] を求めよ、
 (2) [Q(d, w):Q(d)] を求めよ。
 (3) [Q(x, w):Q] を求めよ。
 (4) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
 (5) [Q(x, w):Q] を求めよ。

(4) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(5) [Q(x, w):Q] を求めよ。
(6) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(7) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(7) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(8) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(9) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(1) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(2) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(3) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。
(4) [Q(x, w):Q(x)] を求めよ。

ヒント dのQ上での最小多項式はよ3-7になる、W中Q(d),